# ブルースリー物語　その３

帯広市医師会
帯広中央病院
吉田（よしだ）　貢（みつぐ）

実戦ケンカの達人で、日々の鍛錬に勤しむリーだったが、本人の意識では、自分はあくまでも俳優であり、国籍のあるアメリカでも、格闘家としてではなく、俳優として身を立ててゆくつもりだった。

しかし当時のアメリカメディアの東洋人に対する人種差別は著しく、無名のリーに、そのチャンスはなかった。そこで当座の生活として、リーの実力を知る周囲の道場主たちの助けもあり、1962年、リーは22歳という若さで、シアトルに自分の道場である振藩（ジュンファン）國術館を開設したのである。

もちろんリーは、アメリカでも俳優として成功できる自信があったが、現状からまずは、自分は中国武術の達人であり、米国では未だかつて誰も見たことがないようなアクションができることを映画やテレビ関係者へ売り込むことから開始した。結果、1963年の夏に、有名なロングビーチ国際空手選手権大会に招待され、映像取材を受けることに成功して、ワン・インチ・パンチや二本指片手腕立て伏せなど、空手との差別化を意識した技を披露している。

一方、前述のようにカリフォルニアの中国武術家たちは道場経営の一環として、テレビ、ラジオなどの地元のマスコミも利用して宣伝活動をしていた。

全米テレビの出演でリーの道場は一躍有名となったが、「あの野郎、世話してやった俺たちを差し置いて自分だけ全米テレビで抜け駆けかよ！」恩を仇で返された道場主たちは腹の虫が治まらない。

だがプライドの高いリーに何か言っても、ならば武術家同士、決着は試合でと言われるのがオチだ。そこで北派拳法の達人として知る人ぞ知るウォン・ジャックマンに白羽の矢を立てた。華僑の多くは、福建や広東など中国の南方から海外に渡っており、「南拳」の使い手がほとんどで、北京を中心とする北派の武術を伝える人は、当時珍しく、リーは彼の実力を知らず挑戦を受けるだろうと考えたからだ。

さて、現在の中国武術は空手のような徒手空拳の技というイメージが強いが、それはブルースリーの映画のせいであり、本来は日本の古武道のように、鎧を着て、刀、剣、槍などで戦う総合武術であった。また、甲冑を着ている者同士が戦うので、徒手空拳の技も大きな動作で力強く行う必要があり、身軽な平服で素早く動く現在の格闘技やケンカにおいては、武器を持たないと不覚を取る場合もあり、中国人はケンカとなると、すぐに青龍刀を振り回す輩も多い。

ただし、少林寺の僧侶は殺生を嫌い刃物は使わず、徒手空拳で平服の暴徒を制する「少林拳」の動きは十分にケンカ用と言えるだろう。18世紀に大清帝国が中国を統一して平和になると、多くの武術流派も武器ではなく、徒手空拳を前面に押し出して来た。

日本では、1970年代に毛沢東が広めた、ゆっくりと動く健康太極拳が有名であるが、本来の太極拳は「北派少林拳」を破るために開発されたという伝説すらある、徒手空拳の戦いに秀でた実践的な武術である。その例証として、19世紀の北京で太極拳を広めた「楊露禅」は「楊無敵」とも呼ばれ、他流試合では無敗の実戦名手として有名であった。

リーは幼い頃に父から太極拳を勧められたが全く興味を示さなかった。一方、ケンカに明け暮れていた10代の頃、詠春拳の動きを見て、これは格闘技に使える動きだと即座に理解して入門した。破門後も詠春拳の技をケンカ用に取捨選択して、創意工夫も加え、オリジナルの振藩功夫を名乗ったのである。

ウォン・ジャックマンは太極拳の使い手であり、形意拳と北派少林拳もマスターしていた。その彼を道場主たちはそそのかしたのである。ブルースリーは、「中国の伝統武術は、格闘技やケンカでは使えない技の型練習に明け暮れ、踊りのように套路を演じても闘いには何の役にも立たない。自分の振藩功夫が最も実戦的だ。ウソだと思うのなら誰でもかかってこい。受けて立つぞ！」と天狗になって吹聴して困っている。北派伝統武術の技を示し、リーの誤りを正してくれ、とジャックマンに頭を下げた。

カンフー映画によく出て来るシナリオで、中国人の常套手段だ。ジャックマンが勝てば、「ブルースリーめ、ざまあ見ろ！」となり、リーが勝てば南拳が北派より優秀だと宣伝になる。どちらに転んでも、この策略を立てた道場主たちが損をすることはない。

1964年の秋に、真偽を確かめるためジャックマンは、前もってリーに手紙で道場への訪問を申し込み、リーが了承したので、彼の道場を訪れた。

ところがリーは「（あれはマスコミ用のセールストークで）ずいぶんと盛られてしまって、武術家の皆様には誤解を招き、誠に遺憾である」と返答し、言われていたような好戦的な態度では全然なかった。

どうも話が違うなと感じたジャックマンは、そのまま帰ろうとしたが、道場のドアの鍵が閉められてしまう。どうしても彼らを対決させたい、この策略を仕掛けた連中の仕業で、カンフーのしきたりで、リーは戦わざるを得なくなったのである。

ブルースリーは詠春拳の動きで攻撃を開始するも、ジャックマンは自分が嵌められたことに気付いたので、道場主たちの依頼は尊重しつつ、リーのメンツも考え、形意拳や少林拳で彼を攻撃することは避け、太極拳の化勁でリーの攻撃をいなして、彼が疲れて攻撃が止まるのを待った。（つづく）